

第99回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成22年3月17日(水)
- | | | |
|-------|-----------|----------|
| 12:00 | 第99回総務委員会 | 鉄鋼会館 806 |
| 15:00 | 経産省ヒアリング | 経産省会議室 |
| 16:30 | 業界紙記者と懇談 | 当組合事務所 |

2. 第99回総務委員会

出席者

吉里 勉 (総務委員長)
高木 建 (理事長)
酒匂雅信 (副理事長・東京支部長)
林 光雄 (副理事長・東海支部長)
木村昭夫 (副理事長・九州支部長)
柘野 (事務局)

議 題

- (1) 経済産業省ヒアリング資料の検討について
- (2) 月次調査の見直し状況について
- (3) 品質証明タスクフォースの再編について
- (4) 第35期通常総会の役割分担について
- (5) 同総会の出席状況(22.3.16現在)について
- (6) 組合員の入脱会状況について
- (7) その他

経 過

吉里委員長の司会により議事が進められた。

(1) 経済産業省ヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部内容修正の上了承された。

(資料は別項参照)

(2) 月次調査の見直し状況について

事務局より、標記見直しの状況について、以下の報告が行われた。

当組合が毎月集計・公表している「鋼板流通踏査」は、厚中板の需給動向を把握するうえで、組合員をはじめ、官庁、メーカー・商社からも有用かつタイムリーなデータとして評価されており、業界にとって欠かせない統計となっている。

このため、第97回総務委員会および第86回理事会において、更なる統計精度の向上を図ることを提案し、了承された。これにより、21年9月調査より、毎月、全組合員に対し本趣旨を説明し、調査協力の依頼および理解活動を実施し

ている。

この結果、現時点での協力会社は、従来からの協力会社 61 社に、新規 13 社が加わり、合計 74 社に拡大しつつある。

この点に関し、「まだ調査協力をいただいていない、大手組合員を対象にもっと理解活動を行い、報告会社の拡充を図る必要がある」との意見が出された。

今後、この方針に基づき、各支部と連携しながら、統計への理解活動を進めてゆくこととなった。

(3) 品質証明タスクフォースの再編について

高木理事長より、「一昨年 3 月、当組合内に『品質証明分科会』（主査：臼井美文(株)富士鉄鋼センター取締役）を設置し、同 T F のもとで、検討を進めた。一昨年 4 月以降は、官学民で構成される（社）日本鋼構造協会の『品質証明検討委員会』に参画し、約 1 年間にわたり活動してきた。その成果として、昨年（21 年）12 月、「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン」がまとまり、発刊された。同ガイドラインは全組合員に送付した。

今後は、同ガイドラインの主旨を踏まえ、次のステップとして、まず、大手ファブ・業界団体（鉄建協）との間で、一層の効率化を図るための実行方策を検討していくこととしたい。

については、現在の T F を再編成し、来年度以降、営業系の意見・考えを取り入れながら、より実務的な検討に取り組んでまいりたいと考えている。各位の特段のご協力をお願いしたい。」との説明が行われ、原案通り了承された。

(4) 次期（第 35 期）通常総会の役割分担について

事務局より、今年 5 月 21 日（金）開催の第 35 期通常総会の役割分担について説明があり、原案通り了承された。

(5) 同総会の出席状況（22.3.16 現在）について

事務局より、現時点における総会およびゴルフ会の出席者状況について報告が行われ、了承された。

(6) 組合員の入脱会状況について

事務局より、21 年度の組合員異動（入会 3 社、退会 5 社、総数 173 社）と、22 年度の入退会届の状況（入会 2 社、退会 2 社予定）に関し報告、了承された。

3. 1 Q 経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

小糸鉄鋼課長、葛岡課長補佐、鈴木係長、他

厚板シヤ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、林東海支部長、木村九州支部長、吉里理事・
総務委員長、柘野（事務局）

経 過

最初に高木理事長より、「実需に見合った申込みで、在庫はこれまでかなり調整されてきたが、肝心の需要が不振を極めており、シヤ業界としては60%低操業に耐えるしかない状況。今回の調整の教訓として、鉄鋼メーカーには納期短縮、リードタイムの短縮、即納体制の構築の必要性を要請していきたい。そうしないと需給実態の変動にリンクできず、対策が後手に回り、時間がかかってしまう。我々はユーザーと一緒にコストダウンを図らねば生き残れない。それができなければユーザーは我々に退場を求めてくる。今後も、シヤ、需要家、母材仕入れ先メーカーとの間で、ギリギリの状態が続く。この不況打開に向けた行政からのご支援をお願いしたい。」との要望が行われた。引き続き、各支部長からの需要動向報告、及び意見交換が行われた。 以上